

学校関係者評価

【本校児童について】

- あいさつは、元気にできる子もあるが、登校班によってばらばら。子ども同士の話に夢中で、こちらの姿を見ても知らんふりをする子もいる。しっかりできている子は中学校へ行ってもできていると思う。
- 通学時等で顔を合わせたときは、「おはようございます」「さようなら」「ありがとう」の元気な声をかけてくれる。元気なあいさつは気持ちがいい。
- あいさつをされた人は気持ちがいいということを子どもたちに伝えてもらったら。
- 高学年の児童が言っていたら、低学年も言っている。
- 家庭でのあいさつや保護者の関わりも大切だ。学校だけにお任せではなく、保護者へも浸透していくといい。
- 「子どもは親の言うことは聞かないが、親のやっていることをする」と聞いたことがある。大人が率先して行えれば。
- 一貫校になり、バス通学をしだすとますます子どもと交流する場・機会がなくなる。地区でそのような場を設定するために区長さんにがんばってもらいたい。
- 子どもたちが話し合って目標を立てるというのは、もうないのか。自分たちの中から出てくる目標とトップダウンの目標では意味合いが変わる。

【本校教員・学校運営について】

- 時間を取りるのはなかなか難しいが、学年内の連携をしっかり取らなければならない。
- 保護者アンケートに離席する児童の記述があったが、離席等をする子に対して複数で連携していく必要がある。サポートファイルでも、指導してもダメだったことやうまくいかなかったことも書くなど、もっと気楽に書き込んでみたらいい。そして次年度に引き継いでいってほしい。
- tetoruでの学級閉鎖の情報は全体に流してほしい。
- 以前は学級閉鎖の情報が新聞にも掲載されていた。それをもとに自身の健康に気をつけていた方もいる。学校でどんな病気がはやっているのかといった情報を地域に発信する手立てはないのか。
- 学校業務のことはよくわからないが、昨今の教育事情を見ると大変だなと思う。
- 定時退勤日を設けていることはいいことだと思う。先生のストレスが緩和されることは子どもにとっても先生にとっても大事なことと思う。
- 職員の自己評価を見ると75%の先生がややできた以上の結果になっている。今後、よくできたと言われる先生が増えるように。
- 小学校だよりを毎回楽しく読ませてもらっている。また、地区の回覧にて地域の皆様にも読んでいただいている。
- 子どもたちの親はもちろんだが、地域の皆さんも子どもたちがどのような授業を受けているのか内容がよくわかると喜んでいる。当地区でも3世代交流事業を行う中で、子どもたちとのコミュニケーションを図る上で役立っている。
- 小中一貫校へ目が向いているが、現在の足元を見つめてほしい。